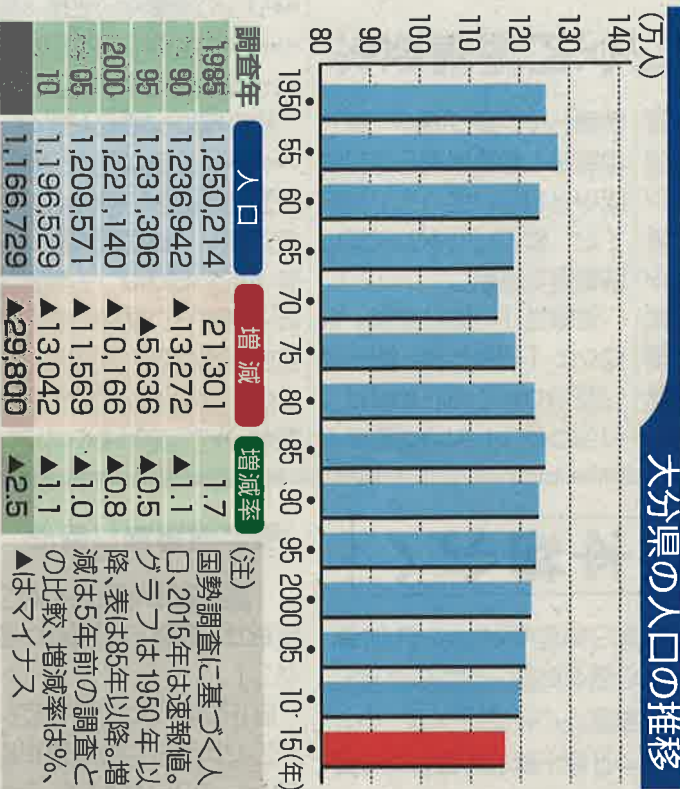


県内人口116万6729人

50年ぶりに
過去30年で最

過去30年で最大

大分県は25日、2015年国勢調査（10月1日時点）の集計結果の速報値を公表した。県内の人口は16万6729人で、10年国勢調査と比べて2万9800人（2・56％）減った。減少率とも過去30年間の調査で最も大きく、人口減少が加速していることが明らかにあった。市町村別では大分市のみ増加し、残る17市町村は減少した。（5面に関連記事）



県と各市町村が人口減少対策の「地方創生」に乗り出す中、あらためて厳しい現状が示された格好。年代別の状況や転出入の動き、就業状態などの詳しい結果は今年秋から順次公表される。県統計調査課は「今回は速報値であり、詳細な分析は今後になる」としている。人口の内訳は、男性55万1945人、女性61万4784人。国勢調査は5年に1度の実施で、県内の人口が最も多かったのは1955年の127万7199人。近年は1985年をピークに減少が続いている。ただ減少率で見ると、90～2010年は10年前後の減少で推移

落ち込んだ。
 して、いたが、今回は大きく
 世帯数は48万5,909世
 帯で、385,888世帯（0・
 8％）増加した。1950
 年の調査から毎回増えてお
 り、核家族化や一人暮らし
 の増加が要因とみられる。
 1世帯当たりの平均人口は
 2・40人で、10年調査の2
 ・48人から0・08人減とな
 った。
 人口の速報値は集計を終
 えた都道府県がそれぞれ公
 表。全国の結果は2月下旬
 に総務省が発表する。

（小林大輔）

15年国勢調査速報値
県内市町村の人口

大分市以外全て減少

県が22日に公表した2015年国勢調査（10月1日時点）の速報値で、県内18市町村の人口は大分市以外の17市町村が10年調査と比べて減少。大分市も増加率が鈍化した。都市部への集中と周辺部の過疎化が続く一方で、全体的な落ち込みが進んでいることが鮮明になった。各市町村は人口減を抑えようと、対策に力を入れる考えだ。

最も減少率が大きかった少防止に力を入れた」。次いで津久見市が9.8%減。少子高齢化や過疎化が進み、県内で唯一、2桁の減少かつた」と市政策企画課は「厳しい状況。人口増創生の施策を進めるといはいかないだろうが、減だ。

えられる」といふ、子育て支援や雇用対策に取り組む方針だが、「全国で人口が減っていく中、大分市も例外とはならない」と話す。減少率が小さかったのは自動車産業が集積する中津市（0・4％減）や、都市部に近づくベッドタウン化している日出町（0・5％減）、大分市（1・2％減）。大分市を加えた4市町で世帯数が増えた。男女別では中津市の男性人口が0・4％増え、大分市を除けば唯一の増加となった。

[illegible]